

自らのヒトゲノム解読・分析を知りたいと思いますか？

一般人が、簡易キットで自らのヒトゲノムを知り得る時代……

ヒトゲノムと病気の予防、治療について、先に「自らは、ヒトという名の生物のいち生命体に過ぎず（HP「雑学 BN」の随想等関係（X）、2013.05.23.）：参照）でも触れたことがある。

これに関連する番組「あなたは未来をどこまで知りたいですか～運命の遺伝子～」を見た。

ヒトゲノムは生体の設計図であり、遺伝子情報から何が分かり、我々にどんな未来がもたらされるかを取り上げた番組であった。

ヒトゲノムの解読は難病等の医療現場に限らず、一般人でもネットで簡易キットで解析依頼が可能になり、日本では37種の病気、米国では120種の病気のリスクが簡易キットで分かるとか。

番組では、肺がんの原因遺伝子が発見され新薬によって患者の9割が回復を見せていることや、腸の難病児のその原因となる遺伝子要因がわかり治療により回復の様子も取材されていた。

ヒトゲノム解読により、学問・芸術・スポーツの世界で開花する才能があるかどうか否かを判断し、それを元にエリート養成が行われている中国の実態や、受精卵から180ほどの遺伝子疾患のリスクを調べるビジネスの様子等も取材されていた。

難病患者の遺伝子解読・分析により、治療への道が拓かれることは望ましいことであり、益々この分野の研究・治療は進んで行くことと思う。

また、一般人が簡易キットで自分の先々の病気のリスク（ex,乳ガン、糖尿病、認知症、等々）が分かれば、予防に努めるということは可能であろう。

だが、容姿、才能などの情報を知ることの出来る社会が、果たして望ましい社会といえるのだろうか。

40年程前、当時の国内外のヒトの生体に関する最先端研究を取材した朝日新聞科学部のルポ書「人間～その誕生から死まで～（1976）」の中に、細胞培養で「継代培養」の世代数を調べると「そのヒトの余命が推測し得るかも…」との研究も取材されていたのを思い出したが、この約40年の間に分子生物学の急速な進歩により、益々我々が自らの「運命」と直面させられる“未来”はすぐそこに迫っているようである。

「みずして信じるは、幸いなりに」という言葉のように、私自身としては、将来のリスクを予想できて不安になり「生きる」楽しみが狭まるような気がするので、分子生物学上からの自らの“未来”なんて知りたいとは思わない。